

消化器内科専攻医カリキュラム

1. 目標

- 1). 消化器疾患の診断・治療の基本的知識の習得、また内視鏡検査、X線造影検査、超音波検査などの基本的技術の習得、および消化器癌化学療法の基礎知識を身につけること。
- 2). 消化器急性期疾患の迅速な診断能力と、基本的な内視鏡的緊急処置の技術を身につけること。
- 3). 患者に対する接遇、あるいは病状説明やインフォームドコンセントといった患者とのコミュニケーションが円滑に行えること。
- 4). 医師同士あるいは看護師、技師等のコメディカルと協調して業務が円滑に行えること。
- 5). 消化器病学会指定のカリキュラムに準拠して後期研修を行い、消化器病学会の専門医受験資格を取得すること

2. 研修スケジュール

年度	
1年度	<p>①消化器疾患の診察方法 消化管出血の診断、肝機能異常の鑑別診断、肝性脳症の診断、急性腹症の鑑別診断</p> <p>②消化器疾患に関する検査技術の習得 上部、下部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査</p> <p>③消化器疾患に対する適切な治療方針の決定と指示</p> <p>④画像診断法(CT, MRI, 腹部超音波検査, 腹部血管造影, 上部消化管造影, 下部消化管造影, カプセル内視鏡など)の的確な読影能力の習得</p> <p>⑤インフォームドコンセント能力の習得</p>
2年度	<p>①消化管出血に対する内視鏡的治療技術の習得 エタノール局注、クリップ止血、APC、</p> <p>②消化器疾患に関する検査技術の習得 ERCP、PTCD、エコー下肝生検、胃精密造影、小腸造影</p> <p>③消化管悪性疾患に対する内視鏡的治療技術の習得 内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー</p> <p>④食道静脈瘤に対する内視鏡的治療技術の習得 EVL、EIS</p> <p>⑤ERCP 関連手技の習得 EST、載石術、内瘻化術等</p> <p>⑥内視鏡関連手技の習得 内視鏡的胃瘻造設術、消化管異物除去術、EIS、EVL 等</p> <p>⑦肝悪性疾患に対する局所治療技術の習得 PEIT、RFA</p> <p>⑧消化器系悪性疾患に対する化学療法技術の習得</p> <p>⑨末期がん患者に対する適切な処置と対応</p> <p>⑩消化器系 IVR 技術の習得 腹部血管造影、TAE 等</p>

3年度	①消化器系特殊診断技術の習得 EUS、IDEUS、PTCS、EUS-FNA、バルーン式小腸内視鏡等 ②カプセル内視鏡の的確な読影能力の習得 ③消化管悪性疾患に対する内視鏡的治療技術の習得 ESD ④新技術の的確な導入能力を身につける ⑤治療成績の的確な統計的評価、発表能力の習得 ⑥チーム医療の指導
終了後の予定	基本的に名古屋大学附属病院または関連病院で診療に従事。

3. 診療科の特徴

- 1). 症例数が非常に多いため、身体診察、画像検査、内視鏡検査など、消化器内科医として基本的な知識と技術を3年間の専攻医期間で十分習得できる。
- 2). 緊急入院患者が新規入院患者の多くを占めるため、消化器内科の急性期疾患を多数経験することができ、救急患者の迅速な診断、治療が十分に経験できる。
- 3). 症例報告などの学会発表や研究会発表を積極的に行ってもらい、症例のまとめ方、プレゼンテーションの仕方も学ぶことができる。また、学会への参加で新しい知識を学ぶ機会を設ける。
- 4). 当科は消化器病学会、消化器内視鏡学会、肝臓病学会等の指導医がそろった認定施設であり、当科で研修を行えば内科認定医取得後、消化器内科専門医等の取得が可能となる。

4. 研修体制

1) 教育病院の指定の有無

日本消化器病学会専門医制度規則による認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

2) 研修カリキュラム

日本消化器病学会「専門医研修カリキュラム」に準拠。

3) 取得可能な認定医および取得可能な時期

日本内科学会認定医(専攻医2年度)、日本消化器病学会認定専門医(専攻医終了後)

日本消化器内視鏡学会認定専門医(専攻医終了後)、日本肝臓病学会認定専門医(専攻医終了後)

4) スタッフ体制

院長1名、部長1名、副部長4名、常勤医2名、専攻医5名、研修医 1～2名

5) 症例検討会、抄読会等のスケジュール

(1) 症例検討会: 毎週1回水曜日 20時～22時

(2) 抄読会: 毎週1回水曜日 20時～22時

(3) 外科合同カンファランス: 毎週1回水曜日 7時45分～8時30分

(4) 画像カンファランス: 毎週1回金曜日 8時～8時30分

(5) その他

6) 主な参加学会

日本消化器病学会 日本肝臓病学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器がん検診学会 日本膵臓

学会 日本胆道学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本内科学会 日本腹部救急医学会 日本大腸検査学会 日本消化管学会 日本胃癌学会 日本食道学会 東三医学会

7) 定期的に参加する研究会等

- (1) 東海胃腸疾患研究会 年12回
- (2) 三河 GI WORKSHOP 年2回
- (3) 酸と消化器疾患研究会 in 豊橋 年1回
- (4) 東三河消化器疾患検討会 年1回
- (5) Nagoya hepatitis seminar 年1回
- (6) 岐阜肝画像研究会 年1回
- (7) 東海腹部造影エコー研究会 年1回
- (8) 名古屋栄養セミナー 年1回
- (9) 名古屋 IBD セミナー 年1回
- (10) ESD 研究会 in 愛知 年1回

5. 主な経験目標

1) 診察法・検査・手技

(1) 診察法

① 消化器疾患の診察方法

消化管出血の診断、肝機能異常の鑑別診断、肝性脳症の診断、急性腹症の鑑別診断

② 消化器疾患に対する適切な治療方針の決定と指示

③ 画像診断法(CT, MRI, 腹部超音波検査, 腹部血管造影, 上部消化管造影, 下部消化管造影, カプセル内視鏡 など)の的確な読影能力の習得

④ インフォームドコンセント能力の習得

⑤ 末期がん患者に対する適切な処置と対応

(2) 検査法

① 消化器疾患に関する検査技術の習得

上部、下部消化管内視鏡検査、バルーン式小腸内視鏡、ERCP、PTCD、腹部超音波検査、エコー下肝生検

② 消化器系特殊診断技術の習得

EUS、IDUS、PTCS、EUS-FNA 等

(3) 基本的手技と(4) 基本的治療法

① 消化管出血に対する内視鏡的治療技術の習得

エタノール局注、クリップ止血、APC、EVL、EIS

② 消化管悪性疾患に対する内視鏡的治療技術の習得

内視鏡的粘膜切除術、ポリペクトミー、ESD

③ ERCP 関連手技の習得

EST、載石術、内瘻化術等

④ 内視鏡関連手技の習得

内視鏡的胃瘻造設術、消化管異物除去術、EIS、EVL 等

⑤ 肝悪性疾患に対する局所治療技術の習得

PEIT、RFA

⑥消化器系悪性疾患に対する化学療法技術の習得

⑦消化器系 IVR 技術の習得

腹部血管造影、TAE 等

⑧新技術の的確な導入能力を身につける

2) 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 症状

消化管出血、嚥下困難、腹痛、背部痛、下痢、便秘、食欲不振、腹部膨満、胸やけ、吐き気、嘔吐など

(2) 病態

消化管出血、急性腹症、閉塞性黄疸、腸閉塞、悪性腫瘍など

(3) 疾患

胃・十二指腸潰瘍、消化管異物、逆流性食道炎、食道胃静脈瘤、機能性胃腸症、過敏性腸症候群、胆嚢胆管結石、急性膵炎・慢性膵炎、急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変、炎症性腸疾患、消化管粘膜下腫瘍、消化管腺腫、食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胆管癌、胆嚢癌、小腸癌など

3) 研究会・学会発表・論文発表

(1) 研究会発表 以下の研究会等のいずれかに1回以上の発表を行う。

東海胃腸疾患研究会、三河 GI WORKSHOP、酸と消化器疾患研究会 in 豊橋、東三河消化器疾患検討会、Nagoya hepatitis seminar、岐阜肝画像研究会、食道色素研究会、東海腹部造影エコー研究会、名古屋栄養セミナー、名古屋 IBD セミナー、ESD 研究会 in 愛知

(2) 学会発表 以下の学会のいずれかに4回以上の発表を行う。

日本消化器病学会 日本肝臓病学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器がん検診学会 日本膵臓学会 日本胆道学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本内科学会 日本腹部救急医学会 日本大腸検査学会 日本消化管学会 日本胃癌学会 日本食道学会 東三医学会

(3) 論文発表 以下の学会誌のいずれかに1編以上の掲載を行う。

日本消化器病学会 日本肝臓病学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器がん検診学会 日本膵臓学会 日本胆道学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本内科学会 日本腹部救急医学会 日本大腸検査学会 日本消化管学会 日本胃癌学会 日本食道学会 東三医学会